

## 刑事訴訟法

平成23年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捜索差押許可状の「罪名」として具体的罰条を記載することの要否</li> <li>・ 捜索差押許可状の「差し押さえるべき物」の概括的記載</li> <li>・ 捜索差押許可状の「差し押さえるべき物」への該当性</li> </ul>
平成24年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おとり捜査</li> <li>・ ビデオカメラによる録音・録画の適法性</li> </ul>
平成25年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訴因の特定（義務的求釈明の対象となるか否か〔傷害罪の共同正犯の実行行為者〕）</li> <li>・ 同一構成要件内での明示的択一的認定</li> <li>・ 検察官の釈明内容と異なる事実認定（訴因変更不要→争点顕在化措置）</li> </ul>
平成26年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝聞法則（ICレコーダー）</li> <li>・ 自白法則（自白の獲得手続に違法がある場合）</li> <li>・ 違法収集証拠排除法則</li> </ul>
平成27年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捜索現場での写真撮影</li> <li>・ 伝聞法則（検証調書に準ずる書面）</li> </ul>
平成28年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再逮捕の可否</li> <li>・ 再勾留の可否</li> <li>・ 同種前科証拠による犯人性の立証</li> </ul>
平成29年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行犯逮捕、準現行犯逮捕</li> <li>・ 訴因の特定（殺人罪の共同正犯における共謀の成立時期）</li> <li>・ 義務的求釈明と裁量的求釈明の区別</li> <li>・ 検察官の釈明内容と異なる事実認定（訴因変更不要→争点顕在化措置）</li> </ul>
平成30年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所持品検査</li> <li>・ 違法収集証拠排除法則（違法性承継論）</li> </ul>
令和1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実質的逮捕論</li> <li>・ 違法逮捕に引き続く勾留請求の可否</li> </ul>
令和2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常習傷害罪の事案における一事不再理効の客観的範囲</li> </ul>
令和3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準現行犯逮捕</li> <li>・ 接見指定の可否・内容</li> </ul>
令和4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「場所」に対する捜索差押許可状に基づく捜索場所内の物（携帯品）の捜索</li> <li>・ 捜索実行中に捜索場所に搬入された物の捜索</li> <li>・ 捜索に「必要な処分」の限界</li> </ul>
令和5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 逮捕の基礎となった事実に別事実を付け加えて勾留することの可否</li> <li>・ 再逮捕の可否</li> </ul>